



令和8年 6月30日(火)
静岡 大学 教育学部
附属 静岡 小学校
3年 学年だより 6月号

3年生になり3か月が過ぎようとしています。運動会や教育実習が終わり、ここまで全力で駆け抜けてきた子どもたちも、6月はほっと一息つけた期間だったのではないのでしょうか。久しぶりに通常の学校生活に戻り、子どもたちは元気に登校できるかな、授業に集中して向かうことができるかなという心配もありましたが、仲間と楽しく遊んだり、共に学習に前向きに取り組んだりする子どもたちの姿をたくさん見ることができてうれしく思います。今回は、つなごりの子どもたちが「つながっているな!」と感じた出来事を紹介します。

遊びでつながる

つなごりの子どもたちを見ていていいなと思うのは、どのクラス・学年の子とも仲良く遊べることです。運動場では、いろいろなクラス・学年の子たちが混じってドッジボールやサッカー、おにごっこをしています。ドッジボールを一緒にやっていると、4月はボールの取り合いやチーム決めて揉める場面が何回もありました。しかし最近では、どちらのボールか分からないときにはジャンケンをしてどちらのボールかを決める様子が多く見られます。どうしたらお互いに納得できるかを考えているところがすてきだなと思いました。また、途中から仲間に入る子がいると「人数が少ないからこっちのチームに入って。」と気持ちよく仲間に入れてあげる様子も見られます。自分勝手な理由ではなく「人数が少ないから」というみんなが納得できる理由でチームを決めているところもすてきです。また、鉄棒をして遊んでいる子たちの日記には「〇〇さんが、上手だねとほめてくれたのでうれしかったです。」「〇〇さんが、やり方を教えてくれたので、今までできなかった連続逆上がりができるようになりました。」という内容が書かれていました。仲間のいいところや頑張っているところを見つけて価値付ける姿がすてきだなと感じました。子どもたちは遊びの中からも多くのことを学んでいます。ルールを守ることや仲間の気持ちを考えることなど、お互いに安全に気持ちよく生活するために必要なことを、これからも学校生活を通して学んでいってほしいと思います。

授業でつながる

先日の理科の授業で「電池につなぐと、なぜ豆電球が光るのか。」という話し合いになりました。電気は目に見えないので、現象の理由を説明するのが難しいです。そこで、ある子が考えた「プラスくん」「マイナスくん」が大活躍しました。電気の動きをキャラクターの動きで表現したのです。「プラスくんやマイナスくんが一周すると光るんじゃない?」「マイナスくんはマイナス極から出ると思うよ。」「わかった!プラスくんとマイナスくんが豆電球のところで出会うからそこで結びついて光るんだ。」などと、みんなで意見をつなぎながら、電気のイメージをつくっていきました。電池はなぜ必要なのか疑問に思っていた子どもたちも、電気が「流れる」というイメージができたようです。3年生なので、あまり深入りはできませんでしたが、みんなの意見がつながることで考えが深まる楽しい授業でした。